

社会の一員として支えていくということ

清真学園中学校3年 原目 理沙

私の祖父は数年前から人工透析を受けています。透析を受ける前までは、祖父と夫婦二人でそば屋を経営していました。しかし、週三回・一回につき数時間かかってしまう透析を続けながらお店を経営していくのは難しいだろうということからお店を畳んでしまいました。私は祖父のお店で食べるそばやうどんが大好きだったので、閉店すると聞いた時はとても悲しかったです。

私は祖父が人工透析を受けると聞くまでは透析というものが何か知りませんでした。そのため、透析とはどういうものなのか、どれくらいの費用がかかるのかなど、透析に関する様々な事について調べました。そして、透析治療の医療費は高額だが、患者の経済的な負担が軽減されるように医療費の公的助成制度が確立しているということを知りました。医療費の負担を受けられるのは保険のみだと思っていた私にとっては、国や地方自治体からも助成を受けることができるというのは少し衝撃でした。その後祖母にいろいろな話を聞いたところ、経済的な負担だけでなく、病院まで送迎してもらうことができる自治体によるサービス等もあると知りました。

小学生のころ、学校で税金についての授業があり、税金がどのような使い方をされているのか学びました。道路の整備やごみの処理、教材など身近にある様々なものが税金によって成り立っていると知り、税金は大切なものなんだと思いました。その当時は自分が税金を払うことによって社会の一員として、社会全体を支えてゆくという意識がありませんでしたが、祖父がたくさんの人が払った税金によって本来よりも軽い負担で治療を受けることができているという実際に身の周りで起きていることにより以前よりも、税金の仕組み・大切さについて深く理解することができたと思います。超高齢社会である日本では、今後さらに、医療・年金・介護等の公的サービスにかかる社会保障費が必要になってきます。私が高齢者になる時には年金の額が少なくなるかもしれないというような話を聞いたこともあります。納税に対して消極的な人も世の中にはたくさんいると思いますが、税の重要性を今一度考え、税金を払うことによって支え合っているんだという意識だけでも持つことができたらいいなと思います。今後も私は、社会の一員としてしっかりと税を納め、社会全体を支えていきたいと思っています。